

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
http://saitokuji.tobihiro.jp/
発行人 脇阪 義幸
印刷 大進ラベル印刷(株) 03-3787-3621



暮らしの中の仏教



5月29日、境内から見たブルーインパルス

今月の予定

7月

- 3日(金) 午後2時 評議員会役員会
- 4日(土) 午後6時 同行会総会 法話:脇阪住職
- 13日(月)~16日(木) 孟蘭盆会
(10日よりお盆体制になり、新盆を中心にお宅にお参りさせていただきます)
- 22日(水) 午後1時半 婦人会聞法会
- 26日(日) 午後2時 中央ブロック会総会・聞法会
- 28日(火) 午後7時 仏教青年会総会

※予定は変更することがあります。詳しくは寺務所までお問合せください。



7月の山門の言葉



暗闇だからこそ 光を感じる

日に日に暑さが増し、夏の気配を感じるようになってきた。今年は例年通りとはいかないが、それでも夏の訪れを楽しみにしている人はいるだろう。

しかし、約二ヶ月にも及ぶ自粛生活を経て、私たちの生活様式は変わりつつあり、様々な場所に於いての行動には制限が設けられるようになった。

そういう中で、私たちはどうしても不自由さを感じざるを得ないが、この状況だからこそ得た物もあるのではないだろうか。

五年程連絡の無かった友人が「コロナ大丈夫か？」と連絡をくれたり、母親が手作りマスクを送ってくれたり、離れていても気に懸けてくれたことは本当に嬉しかった。

とにかく、普段通りの生活では見過ごしてきた、多くの「人」や「物事」に支えられていたことに改めて気づかされる。

現在の状況を通して思うことは、これまで私は、知らず知らずのうちに、我が儘な生き方をしてきた。そんな私自身と向き合わされるところに大きな意味があり、そういう思いもよらない形で照らし出された私として、新たな歩みが始まって行くように感じる。

(大橋 伊知郎 記)



みんなは
こう聞いた!!



六月に掲げた山門の言葉

『ホントの自由は 真実とめる ココロにあるはず』
を皆さんはどう聞いたのか、お尋ねしました。



真実という言葉も自由という言葉も普段何気なく使っていましたが、自分の中で曖昧であったなと感じました。何が真実かを考えるとき、やはり知識者の声、世間の声、ネットの声かなと思います。同時に、その声に振り回されている自分がいます。求める心が大事とありますが、それが何なのかははっきりしません。(30代 男性 会社員)



自由は心に止まらず、行為に現れてこそその自由である。真理が人に言葉となって現れ、私を目覚めさせ、他者を勇気づける。信心は私だけのものではなく、隣人と味わうよろこびがある。このご時世、不自由さが辛い。自由に友に会い、一緒に酒を飲みながら、念仏のよろこびを語り合いたい。(30代 僧侶)

えこお特別企画

今、よろこびを^{おも}念う

念：心に留めること、気持ち、強い意志・信念・願望



世の中が不安の黒雲に覆いつくされ、沈み込んでいる今、私たちは何をよろこびとして願うでしょうか。先行きが不透明な今だからこそ、何が本当のよろこびなのか、何を抛り処として生活していくべきなのかを皆さんと共に考え、共に歩む手がかりとしていきたいと思えます。今回は5ブロック会(出かけていく聞法会)会長の5名様です。



加藤 廣 様(城東ブロック会会長)

コロナ自粛の2ヶ月余り、隠遁生活の中で思っていることは唯ひとつ、1日も早く新型コロナウイルスのワクチンが開発されることです。そうなれば私達はコロナが蔓延する以前の矛盾と煩惱に満ちた世の中に戻れることが出来ます。

又、他面この自粛生活を契機として、今までとは違う、新しい世界に希望と夢を抱き、足を踏み出すことが出来るかもしれませんね。

確かなことは、この夜が明けて朝が確実に来ます。それまでは手洗い、うがい、マスクで、そして三密を避け、元気に聞法会でお会いしましょう。



津久田 愛之助 様(城南ブロック会会長)

昨年、私は肺がん和脳腫瘍を患い、最近まで良好状態が続き安堵していた矢先、この6月また脳に新たな腫瘍が数カ所見付き、再入院が決まりました。

がんを告知された当初、精神的苦痛、死への恐怖など、悩み煩い苦しみました。がしかし悩むより、がんを受け入れ共生することが肝要と気づき、今は己を包み隠さず阿弥陀様に委ね、無心に南無阿弥陀仏を称えることで、いつしか自然と平穏な心を授かりました。このことは、私にとり何よりのよろこびでございます。



笠原 紀一 様(城西ブロック会会長)

「如」という文字が何故か気になり、好きな言葉である。自分勝手に「あるがまま」などと都合よく解釈する。幸いにも生を受け齡80年。良い事、悪い事全て自分自身の体験、判断に基づく一人よがりの、「あるがままの人生、あるがままの自分」がここに在る反面、真逆に近いと思われる「生老病死」、「四苦八苦」という、自分ではどうしようもない真実の言葉がある。

「今、よろこびを念う」、自分は妻、子供、兄弟を初め、自分を取り巻く全ての方々に見守られて在ることに気付かされる。幸いに、皆様は元気に過ごされている。これを何と言おう。「よろこび、喜び、悦び、歓び、慶・・・」。



中条 啓助 様(城北ブロック会会長)

7月に入り、夏が近づいてまいりました。

私事ながら、身近な人が急病で亡くなりました。とても元気な人でしたが、6月初めに血尿があり、介護施設から病院へ入院しました。入院当時は2、3日病院内を歩き廻っていました。ところが6月13日頃から急変し、急性腎不全で亡くなりました。

彼は89才で私より4才年上、自分は健康であると自負しておりますが、ウイルス騒ぎもあり、この度の件で心に重い痛手を受けました。その反面、今生かされている尊さ、よろこびを教えてもらいました。



本間 明 様(中央ブロック会会長)

毎日、感染状況を見て一喜一憂している状況です。人は過去の良かったことを思い出として懐かしみ、「よろこび」を感じるはずですが。本来なら現状でも喜びや感動はあるはずですが。ところがあらゆる営みが制限されている今、それを見出せずにいます。

コロナは治療薬が確定していない、恐ろしい病気ではありますが、自粛と注意を怠らなければ、避けることもできます。自分勝手な「よろこび」は、誰も得をしません。もしも戦争に巻き込まれればコロナどころではないでしょう。戦後の悲惨な状況に比べれば、今の自粛生活の不自由さは辛抱できると自分を諭しています。

喜びや感動は、その後に必ずやってくることを信じています。

そうしょうげん 宗正元先生とのお別れ

100年ぶりの疫病騒ぎといわれる新型コロナウイルスで、世界中が混乱しているさなか。5月20日、宗正元先生は本願念仏の教えに生き抜かれた93年のご生涯を、静かに閉じられました。謹んでお悔やみ申し上げます。

西徳寺とのご縁をいただきまして36年。今年になっても2回、西徳寺にお運びいただき、2時間のご講義をしてくださいました。仏教青年会では発足にあたり、昭和59年に『名告り』と題し記念講演をいただき、以来毎月『歎異抄』・『教行信証』等、ご講義をいただき今日に至っております。私たちもご門徒の方々とともに聴聞させていただき、南無阿弥陀仏のはたらきを諄々として教化いただきました。

半世紀近くにわたる先生と私との出会いは元職員である日野宣也君を通してのご縁でありました。

足がけ36年間、何一つ頷けないまま聴聞の座にいたのでありますが、突然の訃報に言葉を失いました。常日頃、仰せに聞き慣れてしまいマンネリ化している我が身に、突然のように「帰去来他郷には停まるべからず」のお声がずしんと響いてきました。他郷とは自我の世界でありましょう。

たまたま今年、宗先生の師であり、昭和の親鸞聖人と敬われた曾我量深先生の50回忌に当たります。

改めてこの悲しみをご縁とし、聞法の再出発を願っております。

合掌
(大谷 義博 記)



お盆Q&A

Q, お盆(新盆)は何を準備したらいいの?

A, 提灯や精霊馬(ナスやきゅうりに割りばし等を差し、馬や牛に模したもの)、初物の野菜を供える等、地域によってさまざまなお盆ですが、浄土真宗では特別に用意するものはなく、いつも通りの状態でお迎えます。また迎え火や送り火といったこともしません。

Q, 真宗門徒にとってのお盆とは?

A, 亡き人を案じ、供養する「祖先崇拜」ではなく、実は私が亡き人から案じられている身であったことに目覚め、あらためて人として賜ったいのちや生きる意味を問い直していく、「聞法週間」としていただくことが大事であります。

本堂屋根裏防水修復工事完成のお知らせ

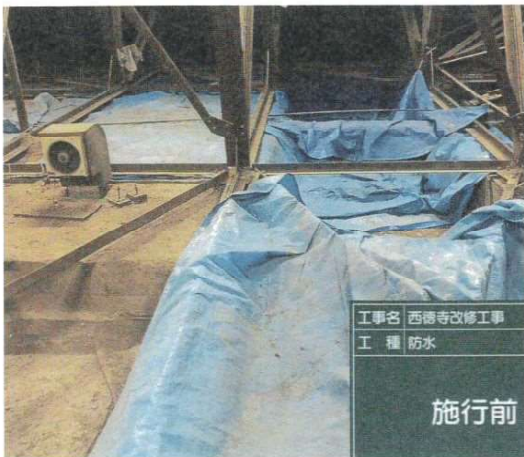
数年前の大雨のため、本堂屋根（西側）より雨漏りの被害が生じ、お内陣（お勤め席）まで雨水の痕跡が表れる状態になりました。早速、役員会を開催し、1年以上にわたり種々慎重に協議頂き、以下の要綱の通りこの度の「本堂屋根裏防水修復工事」がお陰様にて完成致しましたので、謝意をこめてお知らせいたします。

尚、工事費につきましては、「西徳寺 維持会費」より支弁させて頂きました。あらためて厚くお礼申し上げます。またこれから以後も引き続きご協賛のほどよろしくお願い致します。

- ◆施工業者：(株)伊藤組
- ◆施工費：¥616万(消費税込み)
- ◆施工：令和2年5月18日 着工 同年6月5日 完工



階段



工事前



工事後

工事名 西徳寺改修工事
工 種 防水
施行前

【予告】第2会館内 新納骨所 開設

かねてより門信徒の多くの皆様方より、「色々な納骨形式のものを新設して欲しい」とのご要望の声が、多数寄せられておりました。

この度、そのご要望にお応えすべく、第2会館二階に「新納骨所」を開設いたします。

開設日は、8月上旬の予定です。詳細につきましては、開設前にお知らせいたします。

納骨形式の内容は、次の通りです。是非この「新納骨所」へのお問い合わせをお待ちしております。

- ① 仏壇付納骨壇 [地下蓮華堂よりの移設納骨壇 26基分] 【永代お預かりします】
 - ② 箱型納骨壇(夫婦壇)
 - ③ 箱型納骨壇(個人壇)
 - ④ 棚形式納骨壇
- } 【期限有】

(宗旨・宗派不問、更新可、お勤めは西徳寺)

西徳寺 03-3875-3351



私のいいね!



「時代小説」 高橋 保雄 (華香所 担当)

もともと時代劇や大河ドラマが好きでね、鬼平犯科帳なんかはよく見てたね。55才ぐらいかな、前の仕事を退職してから多少の時間ができて、よく読むようになったんだ。パターンが決まっているんだけど飽きないんだよ。

初めて読んだのは『黒白』。池波正太郎が大好きで、だいたい読んだね。本屋、図書館や古本屋とかでうろうろ歩きながら本を探すのが好きなんだ。

最近は時代劇をテレビでやらなくなっちゃって寂しいけど、佐伯泰英なんかはたくさん本を出してて、追いつかないぐらいなんだ。これからも色々読んでみたいよ。 (聞き手: 仲井 真裕)



「二代墓地」、各種墓地、受付中。墓石への法名刻みはお問い合わせください。

えこお志お礼

中野区 小田 周太朗 様

鎌ヶ谷市 鈴木 秀夫 様

新潟県 横山 淑子 様

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。



慶所聞

～よろこび合う生活～

自宅にいる時間が多かったこの数か月、長男(2歳)のイヤイヤ期(我が家では第一次反抗期と名付けました)の凄まじさに、あらためて驚愕しています。言う事を聞かないのはもちろん、こちらの歩み寄りを全て拒否、本人が求めた物をあげてもらえないといい、しまいには泣き叫ぶ始末。ダメだとわかっているけど、我慢の限界を超えて、つい怒ってしまいます。

そんな時、ふと我に返って考えるのは、「ああ、自分もこうだったんだなあ」という懺悔の思いです。どれだけ親に迷惑をかけてきたか、どれだけ親が我慢してきたか、それでも見捨てず育ててくれた親には感謝しかありません。それを思い出させてくれる息子にも感謝しつつ、子供の成長と自分自身に向き合っていきたいと思います。

(蓮井 邦宗 記)

えこおに対するご意見・ご感想、お待ちしております。

saitokuji@ce.wakwak.com



ホームページ

ゆうちょ銀行お振り込み口座
00120-0-80670 名義 西徳寺



Facebook